

本当にわかる 精神科の薬 はじめの一步



改訂版

Contents

- 改訂にあたって 稲田 健 3
- はじめに (初版の序) 稲田 健 5

第 1 部

精神科の薬の基本的な考え方

稲田 健

- 1 薬物療法の考え方 14
- 2 薬物療法をうまく行えるようになるために 16
- 3 向精神薬の分類と適応～5つのカテゴリーを押さえる～ 19
- 4 薬物相互作用の基本 21
 - ① 薬物相互作用の2つのかたち 21
 - ② 薬物の体内動態 22
 - ③ P糖タンパク質阻害 23
 - ④ 肝における代謝～チトクローム P450 (CYP) による代謝 24
 - ⑤ 肝臓, 腎臓における排泄阻害 27
 - ⑥ タンパク結合能 29
 - ⑦ 薬力学的相互作用の例 31
- 5 適応外処方と禁忌処方 32

第2部 各薬剤の特徴と使い方

1. 抗精神病薬

河野仁彦

1 抗精神病薬とは？	36
2 抗精神病薬の作用機序	37
3 抗精神病薬の効果	39
4 抗精神病薬の副作用	41
5 各抗精神病薬の特徴と使い方	45
・ 総論	45
① 第一世代抗精神病薬 (FGA)	48
ハロペリドール／クロルプロマジン／ゾテピン	
② 第二世代抗精神病薬 (SGA)	50
リスペリドン／オランザピン／ケチアピン／ペロスピロン／	
アリピプラゾール／プロナンセリン／パリペリドン／アセナピン／	
クロザピン	

2. 抗うつ薬

村岡寛之

1 抗うつ薬とは？	56
2 抗うつ薬の作用機序	57
3 抗うつ薬の効果	59
4 抗うつ薬の適応疾患，標的症状	61
5 抗うつ薬の副作用	62
6 各抗うつ薬の特徴と使い方	69
① 選択的セロトニン再取り込み阻害薬 (SSRI)	69
パロキセチン／フルボキサミン／セルトラリン／エスタロプラム	
② セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬 (SNRI)	73
ミルナシبران／デュロキセチン／ベンラファキシン	
③ ノルアドレナリン作動性・特異的セロトニン作動性抗うつ薬 (NaSSA)	77
ミルタザピン	
④ 三環系抗うつ薬 (TCA)	79
イミプラミン／アミトリプチリン／ノルトリプチリン	

⑤ 四環系抗うつ薬	82
ミアンセリン	
⑥ その他の抗うつ薬	83
アモキサピン／トラゾドン／スルピリド	

3. 抗不安薬

稲田 健, 松井健太郎

1 抗不安薬とは？	85
2 抗不安薬の作用機序	86
3 抗不安薬の効果	88
4 抗不安薬の適応疾患, 標的症候	90
5 抗不安薬の副作用	93
6 各抗不安薬の特徴と使い方	95
エチゾラム／クロチアゼパム／フルタゾラム／ロラゼパム／ アルプラゾラム／プロマゼパム／フルジアゼパム／メキサゾラム／ ジアゼパム／クロナゼパム／クロキサゾラム／クロルジアゼポキシド／ メダゼパム／オキサゾラム／ロフラゼブ酸エチル	
7 抗不安薬の依存と対策	101
8 ベンゾジアゼピン系以外の抗不安薬	104

4. 睡眠薬

稲田 健, 松井健太郎

1 睡眠薬とは？	105
2 睡眠薬の作用機序	106
3 睡眠薬の効果と使い分け	109
コラム ● 睡眠相後退型の概日リズム睡眠-覚醒障害	111
松井健太郎	
4 睡眠薬の副作用	112
5 各睡眠薬の特徴と使い方	115
① BZ受容体作動薬 (BZ系・非BZ系睡眠薬)	115
トリアゾラム／ゾピクロン／ゾルピデム／エスゾピクロン／エチゾラム／ プロチゾラム／リルマザホン／ロルメタゼパム／フルニトラゼパム／ ニトラゼパム／エスタゾラム／フルラゼパム／クアゼパム	
② メラトニン受容体作動薬	120
ラメルテオン	
③ オレキシン受容体拮抗薬	120
スボレキサント	

5. 気分安定薬

松井健太郎

1	気分安定薬とは？	121
2	気分安定薬の作用機序	124
3	気分安定薬の効果	126
4	気分安定薬の適応疾患，標的症状	128
5	気分安定薬の副作用	131
6	各気分安定薬の特徴と使い方	132
	・ 総論	132
	・ 薬剤ごとの特徴と使い方	132
	炭酸リチウム／バルプロ酸ナトリウム／カルバマゼピン／ラモトリギン	

6. 抗認知症薬

堤 多可弘

1	抗認知症薬とは？	137
2	抗認知症薬の作用機序	138
3	抗認知症薬の効果	140
4	抗認知症薬の適応疾患，標的症状	141
5	抗認知症薬の副作用	143
6	各抗認知症薬の特徴と使い方	144
	・ 総論	144
	・ 薬剤ごとの特徴と使い方	145
	ドネペジル／ガランタミン／リバスチグミン／メマンチン	

7. 発達障害治療薬

河野美帆

1	発達障害治療薬とは？	148
2	発達障害治療薬の作用機序	151
3	発達障害治療薬の適応疾患，標的症状	153
4	発達障害治療薬の副作用	154
5	各発達障害治療薬の特徴と使い方	157
	・ 総論	157
	・ 薬剤ごとの特徴と使い方	159
	① 注意欠如・多動性障害 (ADHD) 治療薬	159
	メチルフェニデート／アトモキセチン／guanfacine	

②自閉スペクトラム症に伴う易刺激性への治療薬	161
リスパリドン／アリピプラゾール	

第3部 疾患別 処方の実際

1. 基本的な考え方

稲田 健

1 単剤で少量から開始し漸増する	164
コラム ● 血中濃度の話	165
2 十分な量, 十分な期間用いる	166
3 薬剤は単剤で使用し, 併用はせず切り替える	167
4 各カテゴリーの薬を1つか2つだけ選んで使いこなそう	168
5 専門医へ紹介するタイミング	170

2. 処方の実際

1 統合失調症	河野仁彦	171
症例①: 初発で精神科入院となった症例		
症例②: 治療中断により再発が疑われた症例		
2 不安症	河野敬明	180
① パニック症		184
症例: 多忙をきっかけに発症した女性		
② 社交不安症		191
症例: 友人に笑われたことをきっかけに発症した例		
3 強迫症	河野敬明	195
症例: 人間関係の悩みをきっかけに“洗浄強迫”が顕著になった例		
4 うつ病とうつ状態	村岡寛之	200
症例: うつ病の典型例		
5 躁状態と双極性障害	村岡寛之	209
症例: 過去に入院歴のある双極性障害患者		

6	認知症	堤 多可弘	215
	症例：物忘れが目立ってきた高齢女性の例		
7	せん妄	堤 多可弘	223
	症例：術後に意識障害，興奮が出現した例		
8	不眠	松井健太郎	232
	症例①：大学院入学をきっかけに睡眠リズムが崩れた例		
	症例②：不眠により長期間服薬を続けている高齢男性		
	コラム ● 睡眠薬を飲んでいるとボケる？	松井健太郎	243
9	摂食障害	河野敬明	244
	症例：過去数回入院歴のある女性		
10	アルコール依存症（使用障害）	河野敬明	252
11	注意欠如・多動性障害（ADHD）	河野美帆	258
	症例：仕事を辞めさせられたことを機に受診となった20歳代男性		

第4部

注意すべき副作用と症候群

河野敬明

1	悪性症候群	268
2	糖尿病性昏睡	270
3	皮膚症状	
	向精神薬による重症薬疹：SJS, TEN, DIHS	272
4	薬物誘発性不整脈	
	薬剤性QT延長症候群と心室頻拍	274
5	向精神薬によって引き起こされる精神と行動の障害（行動毒性）	276
6	リチウム中毒	278
●	索引	280